



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〈第四二五号〉

処暑 しよしよ 八月二十二日

御敷地みしきちの公開

伊勢神宮の二十年に一度の式年遷宮しきねんせんぐうは、神さまが東西に隣り合う二つの御敷地を二十年ごとに東から西へ、西から東へとお遷りうつりになります。伊勢神宮は同じ広さの御敷地が二つあるのが大きな特徴で、現在は西の御敷地に社殿が建ちます。では、東の御敷地はどうなっているのかというと、社殿は撤去されて、白石が敷かれたままの状態になっています。

外宮や別宮では二つの御敷地の様子が参道から拝見できますが、この七月から内宮でも、東の御敷地が一般に公開されています。さっそく行ってきました。

現在お参りする西の御敷地の石段を上り、御門前で案内板に従い、右に折れます。これまでは立ち入り禁止の場所、少しドキドキしながら進みました。参拝者は多いものの、こちらまで足を運ぶ人は少なく、静けさが広がります。

東の御敷地は西よりも一段高いところにありました。その差は一メートル弱でしょう。杉木立の中に広い空間が広がっています。かたわらに「令和十五年第六十三回式年遷宮御敷地」と記された白い角柱が立ちます。そして、広い石原の中央に、小さな覆屋おおいがぽつんとあります。覆屋は、「心御柱しんのみはしら」を守るための建物。古くから神聖なものとして大切にされてきた「心御柱」がここに納められます。この位置が、ご神体が納まる正殿しょうでんのちょうど床下にあたります。

東の御敷地は杉木立の緑が深く、神さびた雰囲気漂います。森の中の聖なる地に神さまをお招きし、お祭りを行ったという太古の姿を彷彿とさせます。

季節は、暑さもおさまるといふ処暑を迎えました。暑さはなお続いています。東の御敷地は神路山かみじやま・島路山しまじやまに連なる緑陰となっていて、吹く風も心地良いです。季節のことばの「新涼しんりやう」を感じることができました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 第22回 神恩感謝日本太鼓祭

日本人は古来、太鼓を打つことで、暮らしの息災と豊稔を神様にお祈りしてきました。私たちは、その伝統と精神を受け継いで、太鼓のお祭りを神宮の神様に奉納します。全国各地から集まった太鼓打ちが、日本人のこころのふるさと伊勢の地にて、感謝と畏敬の想い、そして日々の鍛錬で高めた技で打ち込みます。

日 時／9月7日(土)、8日(日) 10:00～17:00

会 場／おかげ横丁一帯

入 場／無料

● 神宮奉納演奏

全国各地の郷土色豊かな太鼓が伊勢に集い奉納演奏を行います。

日 時／9月7日(土)、8日(日) 10:00～17:00

場 所／おかげ横丁「太鼓櫓」、五十鈴川河川敷特設舞台

出 演／御陣乗太鼓保存会(石川)、梵天(東京)、
山田純平×熱響打楽(愛知)、響座いなせ組(三重)、
山中裕貴×太鼓EXPOユニット(兵庫)、
創作和太鼓集団みのり太鼓(茨城)、富士山火焰太鼓の会(山梨)、
吉村靖弘(大阪)、見目萌(東京)、神恩太鼓(三重)

● 子ども太鼓

地元の子どもたちが伊勢の自然の中で力強い太鼓を響かせます。

日 時／9月8日(日) 午前の部10:00～12:00、午後の部13:00～15:00

場 所／五十鈴川野遊びどころ

出 演／三嶋山太鼓(三重)、ほたる夢太鼓(三重)、
津・高虎太鼓少年隊(三重)、玉丸城太鼓(三重)、
めでたい一座福ノ音(東京)

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 守武翁を偲ぶ～守武翁俳句大会70回記念～

荒木田守武は戦国時代の神宮の神官です。15歳で禰宜になり、後に一の禰宜になります。「俳諧の祖」とされ、もともと連歌が好きでその道の最高指導者三条実隆に師事し腕をあげましたが、次第に簡潔な俳諧に惹かれ、山崎宗鑑の門をたたき、俳諧の道に入りました。「世中百首」では人としての道を俳諧で示し、江戸時代には伊勢論語といわれるほどでした。守武の時代は戦に明け暮れ、朝廷の権威は失墜し御所は荒れ放題、遷宮は120年も中断。そんな中で守武は仮殿遷宮を行ったそうです。芭蕉が俳聖ならば守武は俳句の祖。世界で最も短いボエムといわれる俳句の偉人が三重県に2人もいることに誇りをもちたいものです。

日 時／8月23日(金) 13:30～15:00

場 所／五十鈴塾右王舎

講 師／山中一孝(豆腐庵山中代表取締役)

参加費／一般1,400円 会員900円

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

の 野	ぎく 菊	伊勢路をわたる風にも季節の移ろいが感じられ、数多くの野菊が愛らしい花を咲かせる頃となりました。練りきりで粒あんを包み、初秋の野に揺れる、小さな花に見立てました。
ふじ 藤	ばかま 袴	夏の終わりから秋の初めに花を咲かせる藤袴。香水蘭とも呼ばれ、秋の七草のひとつです。この時季にふさわしい花そのままを、葛生地と緑箔で彩りました。
つゆ 露	たま 玉	草木の緑はなお深みを見せているものの、葉に滴る露のひと雫からは秋の気配が感じられます。秋の季語「露の玉」を羊羹のきんとんと、こし餡で表現しました。